



与那原町史だより

与那原町教育委員会 生涯学習振興課 町史編纂係

与那原の

学校教育

（学び舎の移り変わり）



与那原に学校がやってきた！

与那原にも学校を…

明治33(1900)年、大里間切(現与那原町・南城市大里)では小学校を平良村(図中①の西側)に移転・新築しよう、という話が持ち上がります。それに対し、与那原の人々は通学が不便になるため、学校を分離して与那原村に1つの小学校を新設してほしいという請願運動を起しました。しかし、この請願運動の1年後、小学校が新設されたのは、現在大里北小学校がある嶺井村でした(図中④)。

※1:現在の与那原町域を表しています。
 ※2:大里間切時代の一集落としての「与那原村」を指します。現在の浜田区・新島区・森下区・中島区・江口区と港区の一部で構成されていました。

与那原分教場設置

請願運動から13年後、「第一大里尋常小学校与那原分教場」として、与那原に初めて学校が設置されました(図中⑤)。154年生までの児童が通っていましたが、教室数の都合から、6年生は嶺井村にある本校へ通うことになりました。

昭和16(1941)年4月には、与那原分教場が独立して「与那原国民学校」となります。1、2年生の児童は親川と与



②大里尋常小学校(南風原番所傍)
 明治17(1884)年~明治21(1888)年
 ※設立年代は諸説あり

①大里小学校(南風原地区)
 明治13(1880)年~明治17(1884)年
 ※移転年代は諸説あり

※町史日より文中の表記は人物名等をのぞき、基本的に漢字やカナは現代のものに統一し、数字は算用数字で表記しています。

原にあった与那原国民学校の分校に通
いました。

⑤第一大里尋常高等小学校与那原分教場

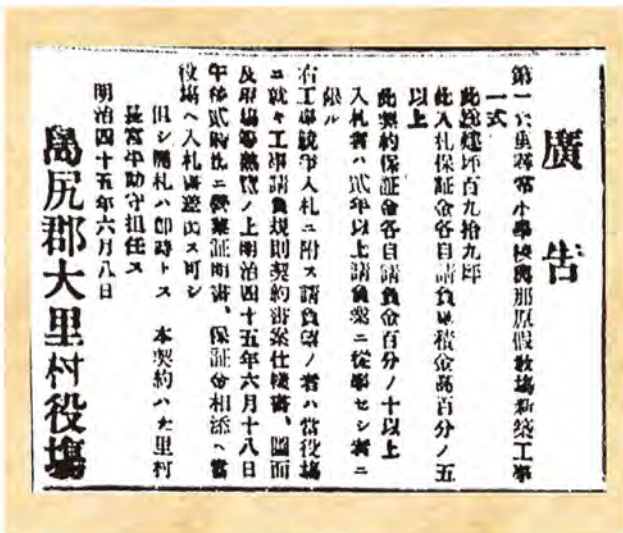
大正2(1913)年～昭和16(1941)年3月

現在の御殿山青少年広場辺りに設置。

昭和16(1941)年4月に与那原国民学校となる。



第一大里尋常高等小学校与那原分教場
大正6年2月20日撮影【提供】安谷屋謙氏



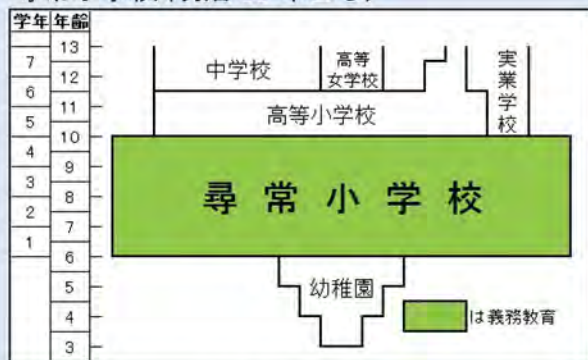
与那原分教場の新築工事広告
『琉球新報』明治45年6月13日1面記事より



豆ちしき

尋常小学校・国民学校ってなに？

尋常小学校(明治33年ごろ)



明治19(1886)年に公布された「小学校令」に基づき、尋常小学校(尋常科:4年)と高等小学校(高等科:4年)が設置されました。尋常小学校に高等科が併設された小学校を「尋常高等小学校」と言います。

国民学校(昭和16年ごろ)



昭和16(1941)年に公布・施行された「国民学校令」によって、従来の「小学校」という名称が変わり、初等科6年、高等科2年で構成される「国民学校」となりました。

参考『学制百年史』文部省 1981年

④大里尋常小学校～(嶺井地区)

明治34(1901)年、大里尋常小学校の新校舎として設立。現在の大里北小学校の位置にあたる。翌年、第一大里尋常小学校に名称を変更。大正2(1913)年4月には高等科が併設され、第一大里尋常高等小学校となる。

南風原町

③大南尋常小学校(島袋地区)

明治22(1889)年～明治31(1898)年
明治31年には大南高等小学校として発足。大里尋常小学校は大里間切役所に仮校舎を設置。

※この地図は、沖縄県知事の承認を得て、沖縄県数値地形図を複製したものである。(平28企情第1777号)

※地図内の情報は、『大里村立大里北小学校120周年記念誌 あまごい森』、『大里村史 通史編』、明治33(1900)年～大正2(1913)年の『琉球新報』を参考に、与那原分教場設置までの学校位置変遷図を追加したものである。

©Okinawa Prefecture

与那原国民学校の記憶

水上機

水面に降りることのできる海軍の飛行機がよく浜に来ていました。



砂浜

休み時間や放課後はカニやゴカイを捕まえる遊び場になりました。



防空壕

天井の無い竪穴の壕が校庭にいくつもあり、訓練で使われました。

御殿山

現在もある拝所です。当時は学校の敷地内で、木がたくさん生えていて、森のようでした。

二宮金次郎像



当時の児童

多くの子は裸足で登下校しました。裕福な子は靴がありましたが、靴を履いていることが恥ずかしくて、校内では裸足になったそうです。

分教場から国民学校へ…

与那原国民学校は、昭和16(1941)年4月にそれまでの「分教場」から分離独立した学校で、これにあわせて新たに第二校舎が建築されました。

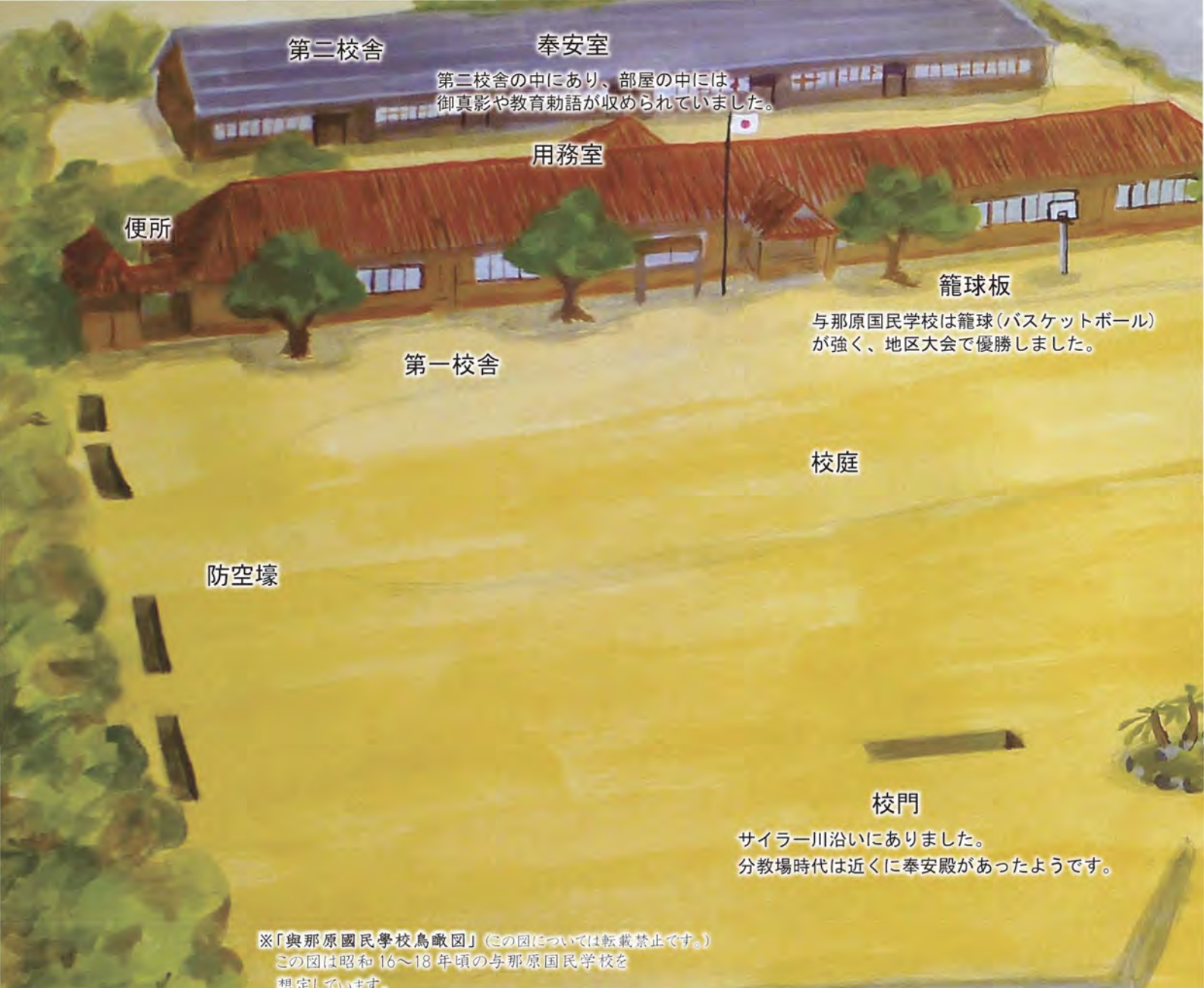
しかし、学び舎としては長くは続かず、昭和19(1944)年になると校舎が日本軍の施設として使用されるようになり、敷地内には兵舎も建築されました。校舎は昭和20(1945)年の沖縄戦で焼失したため、現在は残っていません。戦後は隣接する土地に与那原初等学校が設置され、現在の与那原小学校となっています。そして、与那原国民学校があった場所には現在、御殿山青少年広場と与那原町コミュニティセンターがあります。

今とは違う？ 朝礼の様子

与那原国民学校の朝礼は雨の日以外は毎朝校庭で行い、全校児童と先生が参加しました。朝礼で行われた「宮城遥拝」と「平敷軍曹の墓への遥拝」を紹介しましょう。

まず、全校児童は校庭で第一校舎に向かってクラスごとに整列し、先生たちは校舎の前で児童に向かって横一列に並びます。「右斜め向け斜め」の合図で一斉に皇居の方角校舎の右側を向き、深々とお辞儀をしました。

続いて「平敷軍曹の墓への遥拝」が行われました。平敷軍曹は、昭和17(1942)年にラングーンで戦死した与那原出身の航空兵です。宮城遥拝のあと、全校児童は回れ右をして平敷軍曹の墓がある方角(現在の与那原中央病院あたり)に向かって深々とお辞儀をしました。これが終わると第一校舎の方を向き、校長先生の挨拶が始まりました。



第二校舎の中にあり、部屋の中には御真影や教育勅語が収められていました。

与那原国民学校は籠球(バスケットボール)が強く、地区大会で優勝しました。

※「與那原國民學校鳥瞰図」(この図については転載禁止です。)
この図は昭和16~18年頃の与那原国民学校を想定しています。

与那原国民学校のギモン

○ランドセルはあったの？

裕福な子ではありませんでしたが、大半の子は教科書などを風呂敷に包んで体に巻き通学しました。家が学校に近い子はベルトのように腰に巻き、学校から遠い大見武の子はタスキ掛けに巻いたそうです。

○どんな教科書で勉強したの？

国民学校で使用された教科書は、国語や算数など現在もよく聞く名前の教科書もあれば、修身や国史など聞き馴染みのない教科もあり、中には工作など男女で内容が異なる教科書もありました。そしてその教科書は、国が編集した全国一律の「国定教科書」というもので、戦時中という事もあり戦争を盛り上げる内容でした。

当時の子どもは教科書を毎日持ち帰りました。もし学校に忘れると家族に怒られ、夜中でも取りに行かされました。

○チャイムはあったの？

チャイムはありませんでしたが、第一校舎の鐘を用務員さんが鳴らして時間を知らせました。

○給食は何を食べていたの？

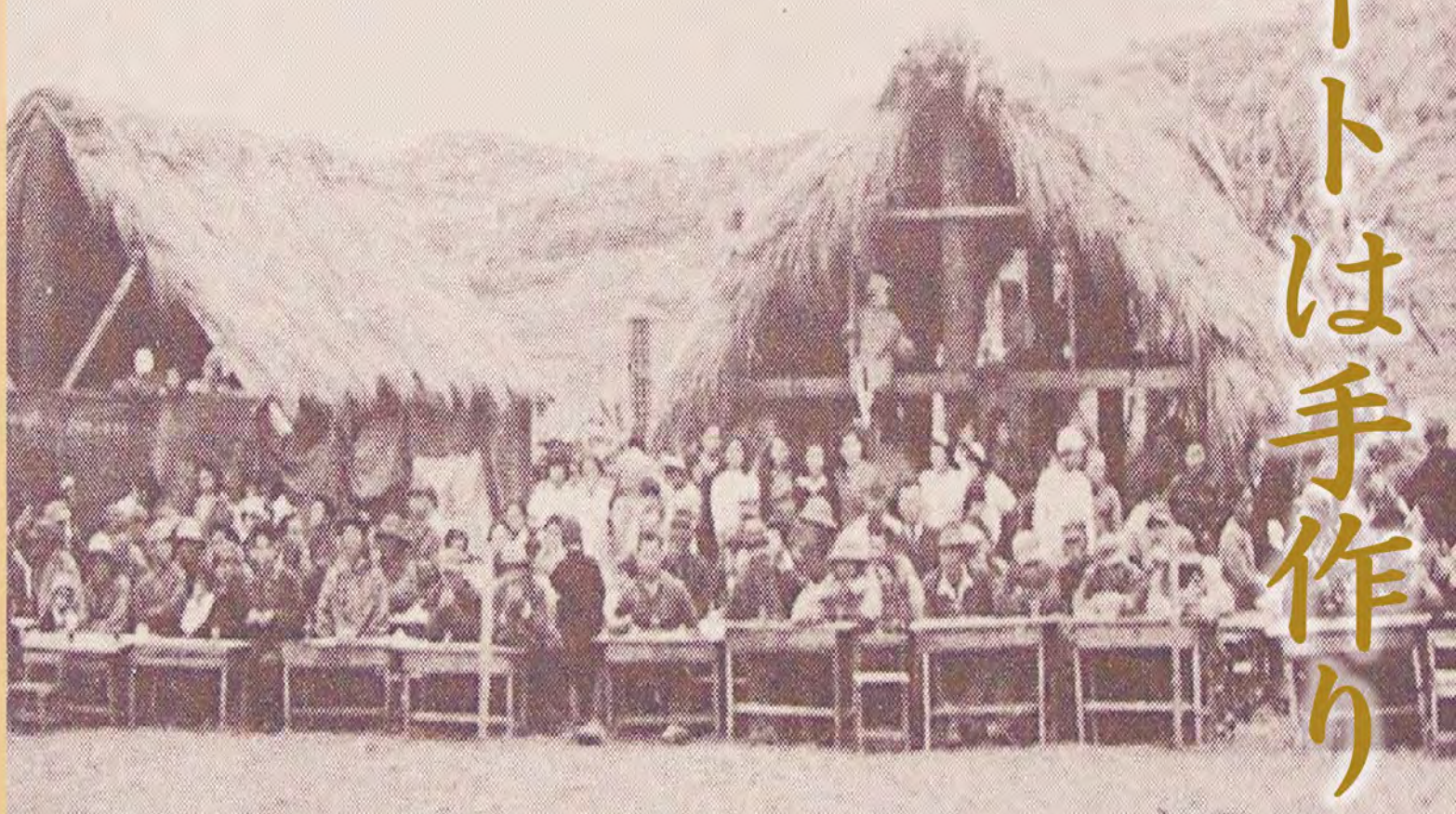
現在と同じように4時間目と5時間目の間は昼休み時間でしたが、基本的に家から持ってきた、芋や米と油味噌などの弁当を食べていました。ただ、弁当を忘れた子や貧しい家の子は用務室で芋がもらえたそうです。

○御真影、教育勅語ってなに？

御真影は当時の天皇・皇后の写真で、教育勅語は当時の教育の目標などが記されたものです。入学式や卒業式などの学校行事や記念日に行われる儀式のときに奉安室から取り出して校長先生が式台で掲げたり読んだりして使いました。

※奉安室(奉安殿)…御真影や教育勅語を保管するための倉庫で、金庫のように頑丈に作られています。

スタートは手作りの校舎から



カヤぶき屋根の与那原初等学校…この校舎は壁がなく、当時の馬小屋のようだったので、馬小屋校舎とも呼ばれました。
昭和23~24年撮影 【提供】与那原小学校

大見武収容所から

昭和20(1945)年6月以降、米軍は住民が与那原の海沿いへ立ち入ることを禁止し、大見武収容所で生活をさせました。住民にとっては、日々の食事さえも十分ではなく、収容所での生活は厳しいものでした。子ども達が教育を受けるための教科書や文房具もありませんでした。

それでも住民の協力によって、天幕やカヤぶきの校舎が造られ、翌21年に南風原初等学校が開校されました。教職経験者などが与那原や南風原の子ども達を集め、読み書きや計算を中心に教えていました。

※収容所：米軍が占領した地域の住民を保護・管理する
目的で移住させた場所のことです。与那原では大見武に設置されました。

学校の引っ越し

昭和21(1946)年、米軍から土地が徐々に開放され、人々は収容所から与那原に戻ってこられるようになりました。それに伴い、大見武にあった学校も現在の与那原小学校の敷地に移転し、与那原初等学校として開校されました。

地域の住民や先生、初等学校の7・8年生が中心になって校舎を設置し、9棟のカヤぶき校舎で授業が始まりました。またこの頃から、徐々に文房具が手に入るようになりました。



コンセット校舎(手前右)と瓦ぶき校舎(中央奥)の与那原小学校 昭和29年撮影 【提供】山内敏春氏

コンセットの校舎に

昭和22(1947)年には、与那原初等学校の運動場の北側が拡張され、そこにコンセットが具志川村栄野比(現在のうるま市字栄野比)から解体・運搬されてきました。コンセットとは、米軍の組み立て式の兵舎で、屋根や壁をトタン板で覆ったかまぼこ型の建物のことです。

このコンセットは、地域の住民の協力のもと、新たに5棟設置されました。その内部はベニヤ板で仕切られ、2つの教室として使用されていました。

移り変わる学校舎

昭和23(1948)年には与那原中等学校が設置され、昭和28(1953)年に現在の中学校敷地に引越すまでの5年間、初等学校と中等学校は同じ敷地内にありました。

昭和24(1949)年、現在の与那原町域は大里村から分離し、与那原町が誕生しました。

その3年後の昭和27(1952)年から徐々にカヤぶき校舎が取り壊され、瓦ぶきの校舎へと建て替えられました。しばらくの間、コンセットと瓦ぶきの校舎が同時に使用されていました。その後、昭和29(1954)年には、新たにブロック建ての校舎ができました。

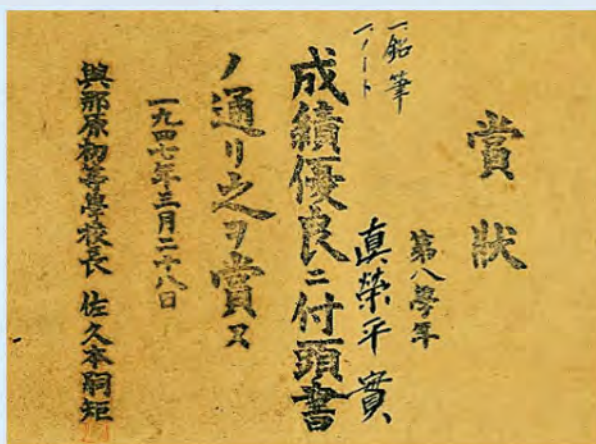
また昭和52(1977)年には体育館、昭和57(1982)年にはプールなどの施設が建設されました。さらに、校舎や施設は数度の建て替えが行われ、現在の与那原小学校へと続いています。



豆ちしき

初等学校ってなに？

初等学校とは現在の小学校にあたります。昭和20(1945)年の末頃に国民学校から初等学校へと改称されました。国民学校時代に分かれていた初等科、高等科が一つになり、子ども達は初等学校で8年間の義務教育を受けました。「小学校」という名称に変わったのは昭和27(1952)年のことです。



与那原初等学校8年生成績優良者賞状 【提供】眞榮平賞氏



むかし与那原の学校事情

△大里尋常高等小學校 島尻郡第一大里尋常高等小學校にては尋常四年以下に休暇中の心得として左の各項を注意いたし候

△日出前に起床する事△洗面後父母長上にお早うの挨拶をなす事△毎日兩陛下の御厚恩を考へる事△時間割の通り勉強する事△家内の手傳をする事△生水不熱の果物を食せざる事及び過食をせざる事△木登川這入り危険の場所近づかざる事△兄弟及朋友同志親睦にする事△晩は早く就寝する事△八月十一日同二十一日同三十一日の各日に午前八時迄に學校に集合する事

猶尋常五年以上學生には夏休の歌を作りて與ふられまた休暇中の心得を七五調にしたる唱歌に候

『琉球新報』大正3年8月3日2面記事より

夏休みの心得は？

夏休み前、学校の先生が子ども達へ伝えた心得（注意事項）を報じた記事。「毎日天皇皇后両陛下の深い御恩について考えること」「生水や熟していない果物を食べないこと」など、当時の世相を反映したもののほかに、早寝早起きの呼びかけなど、今も変わらないものもあります。

今年も浜辺で運動会

大里間切*と南風原間切の小学校の連合運動会が、与那浜（与那原の浜）で開かれたことを報じる記事。児童の保護者以外にも、役場職員・軍人・新聞記者などが見物にきたことや、競技で綱曳を行ったことなども記載されています。

※間切…沖縄の旧行政区画名。

●大南學區の運動會

昨三十日教育勸語紀念日を期し大里北部南部の両邊、南風原、大南高等四校の聯合運動會を大里間切與那原に於て舉行せられたり入口の漁門には大運動會と大書せる額額と揚げ場の岡方高く樹立てたる竿頭よりは八方に滿觀者となしたるが上は一隅には樂隊室を設け又自通う善さ一方には新張の茶室席を設くる等諸種の設備格ちもなく施こされたり。

※大里尋常高等小學校、菅野郡視學、西原校の敬園及生徒、大里南風原岡役場吏員其他在郷軍人父兄、民間の重かる人々及新聞記者等約百名に達す

式は午前七時開始せられ君が代の唱歌あり教育勸語は馬場大里北部尋常小學校長によりて奉讀せらる續いて四校兒童等を混成し体操及動作遊戯競争遊戯綱曳等の外男女職員及青年會員在郷軍人等の競技もあり都合四十余回順席よく行はる斯くて萬歳を三唱し閉會を告げたるは午後四時なり

閉會後學校職員役場吏員及民間有志の人々大里北部尋常小學校に於て祝杯を擧げ茶で懇親會を催したり

『琉球新報』明治39年10月31日2面記事より

○町史インフォメーション

町史編纂係では平成28年度から『図説編 与那原の教育のあゆみ』の編纂に取り組んでいます。琉球王国時代から現代までの与那原の学校教育をまとめた1冊になる予定で、「図説編」とのタイトル通り、写真やイラストをふんだんに使用した、見て楽しい・読んで楽しい町史を目指しています。

そのために、町民の皆様がお持ちの教科書や通知表、卒業証書といった、与那原の学校教育を物語る史料も可能な限り掲載したいと考えております。このような情報がありましたら、ぜひ町史編纂係までご一報ください。

与那原町史編集委員会 紹介

編集委員会



委員長 吉浜 忍



副委員長 山内 敏春



委員 新垣 庸一郎



委員 渡名 喜興憲



委員 眞 榮平 實

専門部会



部会長 吉浜 忍



副部会長 玉那 覇邦和



委員 近藤 健一郎



委員 新垣 光博



委員 深澤 秋人

事務局／宮平律子 桑江朝照 田港千仁 下地翔子 仲程勝哉 松川明日香 伊集絵里香

編集・発行

与那原町教育委員会 生涯学習振興課 町史編纂係
〒901-1303

与那原町字与那原 712 番地

与那原町コミュニティーセンター2階

TEL: 098-871-9981 fax: 098-871-9982

表紙写真：与那原国民学校（昭和17年撮影）

【提供】金城廣氏